

にすれば再び原物質を折出す即ち本物質はラクトンの性質を有す。

アルコール性加里にて紅色を呈すしかし着色はサントニンに比し微弱である。硫酸溶液—第二鐵反應も紫色であるが何れも亦サントニンに比し微弱である。

元素分析二回の平均は C = 71.04, H = 7.10, 分子量測定二回の平均 228 で $C_{13}H_{16}O_3$ としての理論數 C = 70.87, H = 7.33. 分子量 220 に近し。

以上により本物質は分子式は $C_{13}H_{16}O_3$ にして一個のラクトン環を有す。即ち $C_{13}O_{15}O \left\{ \begin{array}{l} -CO \\ -6 \end{array} \right.$ なる示性式を有するものである。

本物質は多くの點に於てサントニン ($C_{15}H_{18}O_3$, 融點 170°) に類似すれどその融點其他よりして同一物であらざることは明らかである。しかしアルテミシン ($C_{15}H_{18}O_4$ 融點 202°) には類似するところ極めて多し。

本物質の化學的構造及生理的作用の研究は目下續行中である。

出問追加討論 (演題番號)

所屬 衛生技術廠 氏名 川口 靜慶

要旨 抽出後粗裝結晶の持出すると至る迄の日數如何

出問追加討論 (演題番號)

所屬 有機 機 氏名 立山 彌七

要旨 粗結晶は二週間位放置しておきます

(24) オナモミ子實油及び山葡萄油に就て

林 耀 堂

オナモミ油は新京南嶺附近に野生してるものを採集してその子實をエーテルで抽出したものに就いて山葡萄核は吉林産のもので葡萄酒製造の殘滓より集めたもののエーテル抽出油及び機械溫壓油に就いて普通の油脂試験法に従つてその性状をしらべた結果次表の通りである。

オナモミ子實油及び山葡萄核油の性状

		オナモミ油	山葡萄核油	
			エーテル抽出油	機械溫壓油
外 見		黄 金 色	帶 綠 黄 色	綠 褐 色
比 重		$d_{20} = 0.9213$	$d_{20} = 0.9232$	$d_{20} = 0.9224$
屈 折 率		$n_{20} D = 1.4752$	$n_{20} D = 1.4760$	$n_{20} D = 1.4759$
エン グ ラ ー 度		$20^\circ C; 8.0$ $50^\circ C; 3.1$	$20^\circ C; 7.9; 50^\circ C; 3.1$	$20^\circ C; 7.9; 50^\circ C; 3.1$
酸 價		10.96	4.40	3.02
鹼 化 價		194.77	195.91	189.87

沃 度 價	139.40	141.35	139.09
ロ ダ ソ 價	80.75	78.97	73.74
ライヘルトマイスル價	0.23	1.03	0.25
六 臭 化 物 價	38.55	34.26	41.45
ア セ チ ル 價	7.72	17.06	12.17
不 鹼 化 物	0.84%	0.57%	0.71%

尙脂肪酸は目下詳細に検索中でその結果に依つては上記の恒數の一部も再検討する必要ある様に思はれるがその結果は近い中に報告する豫定である。

(25) ベンツオールとエチレンクロリドのフリーデル・クラフツ

縮合反應に於ける各種溶媒の影響に就て

岩 切 三 雄

ベンツオールとエチレンクロリドの AlCl_3 を觸媒とする縮合反應に於て CS_2 とニトロベンツオールを添加せる場合と添加せざる場合の三つの場合の反應生成物を比較研究した Nitrobenzol を添加せし場合は縮合反應進行せず、二硫化炭素を添加せる場合は、添加せざる場合と大差なく、唯硫化物を生じ生成物を不純ならしめ精製に手数を要する。生成物は大半 Diphenyläthan でその他固體液體の高度重合物を含有する。

御指導賜はつた有馬研究官に深謝の意を表する。

(26) ニコチン劑製造に關する研究

白土ニコチンの製造について

石 渡 實・柴 田 勝 信

白土ニコチンとは煙草から何等かの方法でニコチンを浸出し之を酸性白土に吸着乾燥粉末としたもので硫酸ニコチン同様主として農業用殺虫劑に使用する事を目的としてゐるものである。

我々の行つた實驗をニコチンの浸出及酸性白土によるニコチンの吸着の二段に分ち説明する。

1) ニコチンの浸出

我々の行つた方法は原料の約 10 倍量の $50\sim 60^\circ\text{C}$ の温水を以て 50mm Hg. の減壓下に於て 4~6 回繰返し處理する事によりニコチンを浸出せしめる方法である。

温水量を 8~12.5 倍 (原料に對して) に變化せしめたがこの範圍内に於てはニコチンの浸出は殆んど同様で 50~80% (原料中の) のニコチンが浸出される事がわかつた。